



# 北海道教育連盟 造形教育報

No.150 2021.1.29発行

発行 北海道造形教育連盟  
会長 森長弘美 (札幌市立宮の森中学校長)  
事務局長 東 尚典 (札幌市立福住小学校長)  
事務局 札幌市立福住小学校  
〒062-0043  
札幌市豊平区福住3条5丁目1-1  
TEL(011)854-1318・FAX(011)854-1428  
HP <http://hokuzou.kir.jp>



## 連盟報 150号 記念特集号

～連盟報のあゆみ(1995～2020年)を振り返って～

### 地区サークル紹介コーナー登場

1999年 108号から

1999年108号から「地区サークル紹介」として、地区サークルの活動を紹介するページができました。115号から「地区サークル近況だより」になったり、122号からは1度にたくさんのサークル紹介を行ったりしています。現在は、2サークルずつ順番に紹介しています。ご協力ありがとうございます。



### 8面から4面への縮小版となる

2016年 142号から

紙面数8面から4面になりました。8面のときには、見開きの「大会スナップ」のページで、全国・全道大会の様子が紹介されました。授業を見て感じたことや、大会運営側の言葉などが記載されていました。142号からは、現在のA4紙面が基本となり、限られた紙面の中でお伝えしています。

### さらに読みやすい工夫をめざして

2020年 151号から

2020年夏号に発行した連盟報より、1行の文字数を減らすことで読みやすくなるように3段組みに変更しました。また、ユニバーサルフォントにすることで、誰もが見やすくなるようにしております。



連盟報に携わってきた

## 諸先輩たちの言葉

これまで北海道造形教育連盟の広報部として連盟報発行にご尽力いただいた諸先輩方に、連盟報150号を記念してお言葉をいただきました。連盟報は、時代に合わせてマイナーチェンジをしてきましたが、その節目節目に、さまざまな先生方の知恵や、連盟員や地区サークルとの協力体制がありました。

### 連盟報100号の頃

毛馬内 國夫 (1991~1998年度 広報部長)



約30年も前になってしまったが、連盟報が100号を迎えた記念特集として諸先輩の座談会を企画した。昨年百歳で他界された伊藤恵先生を始め連盟草創期の方達の話には熱が溢れていた。ビデオカメラで記録しテープ起こしをしたので、誰の話かを判別するのに苦労はなかったが、量が膨大となり本紙には収まらず、別紙刷を付けて配布したのが強く心に残っている。

全道大会の記録は写真取材の他に広報部員が分科会に分かれて参加し、原稿依頼を行った旭川大会や根室大会なども新鮮であった。

札幌山鼻小大会では、拡大広報部で大会速報を発行したことも思い出深い。連盟報の紙面は当時A5版からA4になり写真を入れるなどの余裕が生まれ

た。年3回の発行は忙しくもあったが、集まるたびに造形談議も楽しかった。

全道各地のサークル紹介はネットワーク部会が生まれ全道の交流の場が広がり、連盟報の発行回数減を補って余りあるものとなった。



### 実践事例集

全国造形教育連盟北海道支部編

造形新時代



連盟員となって三十数年が過ぎましたが、その多くの年月は広報に関わる活動でした。

### 広げること、繋げること

中居 正光 (1999~2001年度 広報部長)



広報部の役割の一つは、年に2回の連盟報の発行です。回数、紙面が限られている中、地区サークルの活動紹介を取り入れ、大会の報告記事にも、各地区、校種の会員の皆さんの声を広く掲載することを心がけて取材、原稿依頼をしました。

また、もう一つの役割は、大会紀要、集録、実践事例集と周年記念誌の編集・発行です。連盟の過去から現在までの足跡を振り返

り、その成果を未来の造形教育に繋げる活動です。私は60周年記念誌の編集をさせていただき、翌年2011年の全国大会では、広報統括部長として部員の皆さんの尽力に支えられ、オールカラーの紀要や実践事例集を発行することができました。私にとって最も充実した活動だったと思っています。

今後、HPやネットワーク会議を含め、広げる、繋げる広報活動を期待しています。

## 私と広報部

加藤 正幸 (2004年度 広報部長)



まずは道造連の連盟報150号の発行、大変喜ばしいこととお祝い申し上げます。私と連盟広報部の出会いは、毛馬内先生に声をかけていただいたのが最初です。いろいろ教わり活動できたことを感謝しています。

連盟報の編集は、限られたページで構成する難しさがあり、大会毎に伝える内容の精選や地区の活動の様子や参加者の声をわかりやすく盛り込むのにどうすると良いか試行錯誤

したことを覚えています。広報部では、北区から共に活動してきた土肥先生と2001年の全道連札幌大会の紀要を編集したことや、中居先生と現在の連盟報の表紙変更を考えたこと、そして60周年記念誌の編集と一緒に携わることができました。

ほかに教育美術展の賞状添付用写真撮影担当の際、フィルムでの撮影後に一枚一枚切り貼りし作成するという手作業の苦勞もありました。



今の広報部には、デジタル時代の「紙の広報紙の役割」を考え、良い紙面を作ることを期待しています。

2007年124号から担当させていただきました。前任の東部長からこのお仕事を引き継いでから足掛け5年間、微力ながら2011年の133号まで担当させていただき、自分としてはとても勉強になった5年間でした。前任の東先生の広報発行にかけた熱い思いを冷まさぬよう、そして、新しい広報のスタイルを模索しながら発行してまいりました。この時大切にしたのは全道にある各地区サークルとの強固な連携を築き上げるとい



## 連盟報でできること

札幌市立新琴似南小学校 松本 和彦  
(2007~2011年度 広報部長)

うことです。当時は小林知広先生の手がけた『全道ネットワーク会議』とリンクさせることができたのも、全道に広がるたくさんの仲間のおかげだと感じております。現在はインターネットをフルに活用し全道の仲間たちとの簡単に繋がることができ

ます。そして、そこには無限の可能性を秘めていることでしょう。しかし、紙でしか表現できないこともまだまだあると思います。広報活動が全道の仲間への応援誌となり広がっていくことを今後も願っております。

## 『人』とのつながりを大切に・・・

札幌市立盤渓小学校 櫻田 悟  
(2012~2016年度 広報部長)



今思い起こせば、只々「感謝」の一言に尽きます。

松本広報部長より引き継いだ134号。はじめは「自分にできるのかな?!」と重荷を感じましたが、たくさんの方々にご協力いただきながら発行することができた嬉しさは、つい昨日のようです。

一時は連盟の資金繰りの関係で発行危機も!?ただ、各連盟からの存

続を願う声、HP上だけではなく、紙として残る価値…そういうたくさんさんの思いのもと8頁から今の4頁と刷新された142号。各連盟との「パイプ役」となり、今でも連盟の大切な財産として続いていることに感謝しております。

夏・冬と2度発行し、各大会に足を運び、様々な先生方と交流できたこと…地域でのふれあい…また、小



南印刷との出逢いやつながりができたこと…各地の大会運営をわずかですがかじらせていただいたこと…造形を通して『人』とふれあえたことは広報部長をやってみての賜物です。私は、いつまでも連盟報の熱きサポーターの一人です。



# 地区サークル紹介

各地区サークルの活動をホームページで紹介しています。  
<http://hokuzou.kir.jp/team-hokkaido.html>



今年度は、新型コロナウイルスの影響で、どの地区もなかなか普段通りの活動ができないことと思います。今回は、2019年度の地区サークル活動のパネルを紹介させていただきました。

「With コロナ」の生活がまだ続きそうですが、この状況でもできることを「チーム北海道」で考えていけるよう、これからも各地区の活動を紹介します。全道の会員同士が交流できる場としていきます。

**帯広市教育研究会**

**図工美術部会**

**2019年度**

**より発足!**

**2019年度**

**より発足!**

**2019年度**

**より発足!**

**空知美術教育研究会**

**2019年度**

**より発足!**

**2019年度**

**より発足!**

**2019年度**

**より発足!**

**2019年度**

**より発足!**

**2019年度**

**より発足!**

**函館市美術教育研究会**

**<お知らせ>**

現在、研究部所管の「ネットワーク会議」では、ZOOMを活用したオンライン・ネットワーク会議を不定期で開催中。過去3回の会議の中では、各地区からの実践報告も多数寄せられ、コロナ禍でも各地区・各学校で奮闘する先生方の取組が紹介されています。ネットワーク部員以外の参加もO.K.開催のご案内が届きましたら、一度、参加してみませんか。

～問い合わせ先～  
NW担当 中村 珠世  
(北海道教育大学附属札幌小学校)

## あ と が き

今回様々な資料を振り返って、連盟報の歴史に触れることができ、勉強になりました。今後も会員のみなさんの力になれるような広報にしていきたいと思ひます。  
<北海道造形教育連盟 広報部> 黒川 友理・篠原 貴・小林 知 広